

2010/03/25

贈る言葉

山梨県立大学長

伊藤 洋

今日、ここに横内正明山梨県知事代理古賀浩史^{ひろし}山梨県総務部長をはじめ山梨県内各界のご来賓のみなさまにご列席を賜り、山梨県立大学・国際政策学部卒業生 80 名、人間福祉学部卒業生 86 名、看護学部卒業生 100 名、さらに看護学研究科修士課程修了生 7 名の諸君に、学位記を授与できることを心からうれしく思います。また、これらの諸君を、今日まで支援してこられたご家族・ご親族の皆さん、また本学常勤の教職員は言うまでも無く、非常勤講師として、あるいは教育 GP に関わって協働事業に参加された多くの関係者、学外実習・インターンシップ・街づくりなどの現場でご指導を賜った数え切れないほど多くの県民のみなさんに心からお礼とお慶びとを申し上げたいと思います。

さて、一昨年秋に出来したリーマンショックの煽りを最も大きく受けたのが、他ならぬ今日の卒業生諸君であります。と言いますのも、1993 年から 2005 年まで続いたいわゆる「就職氷河期」の中で、最も有効求人倍率の低かった 1999 年を凌駕して、今年度が高度成長期以降過去最低の求人倍率を記録したからに他なりません。その結果、今年 2010 年 2 月 1 日現在で全国の大学生就職内定率は、80.0%に止まっていました。そして本学の就職率は、今日現在 94.0%と全国平均をはるかに凌ぎ、おそらく国内 773 の国公私立大学中ベスト 50 位程度に入っていると予想されるものの、未定者をまだ 15 名残しております。これらの諸君には大学として引き続き支援を継続して参ります。今日の卒業式以降も大学と引き続き密接に連絡を取り合ってもらいたいと存じます。

さて、一部の大学院進学者を除いて、今日を境にして皆さんは社会の第一線に出て行きます。その社会はいまや混乱の極みにあるといっても言い過ぎではありません。世界は、わけても先進国は殊の外自信を喪失し、「周章狼狽」と言っても良い状態にあります。一昨年秋のリーマン・ブラザーズの倒産が、あっという間に大津波のように世界を駆け巡り、先進各国に一大金融不安を呼び覚ました。絢爛豪華な金融資本主義の裏側に潜む脆弱性、それが過去に営々として積み上げてきた社会的蓄積を根底から覆すのではないかという不安を世界中に喚起しているのです。かくのごとく、現代の繁栄は「板っ子一枚 下は地獄」の上に築かれたものであることを否応無く知らされたのでした。

社会学の泰斗マックス＝ウェーバーは、「社会学のバイブル」とも言われる有名な著書『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』の中で、近代資本主義の精神はその源をキリスト教の分派ルターやカルヴァン主義などプロテスタンティズムが持つ「禁欲的エートス（倫理）」に求めることができる、と語りました。ここに禁欲的エートス＝倫理とは、額に汗する労働、遊興には費やさない吝嗇、「トキはカネなり」の時間観念、職業を天職（ベルーフ＝神の仕事）とする職業観、得た利益を遊興に費消するのではなく、自他の天職の改善・進歩に投資＝インヴェストメント（investment）する、こういう倫理観念を指すというのです。

このような資本主義精神の典型的な体得者の一人が、あのアメリカ独立の父、雷鳴の轟く中、黒雲の中に凧を上げて「稲妻が電気である」ことを証明したベンジャミン＝フランクリンだと、マックス＝ウェーバーはこの書物の中に例示しています。フランクリンは、この禁欲的倫理によって人間的にも経済的にも政治的にも大成功を収めました。しかし、必ずしもフランクリンのような高潔にして、神の忠実な羊でなくとも、大金持ちは出現します。そして、この人たちすらも、フランクリンと同様に禁欲的で良きプロテスタントとして生きた人たちに違いないと世間は勘違い致します。かくて、金持ちと、忠実な神の小羊との違いは見えなくなり、世界はどんどん強欲資本主義へと突き進んでいったのだとも、ウェーバーは述べております。

こういう「歴史の終焉」で、世界は先進八カ国が支配するG8 から、新たな成長センター中国やインド、ブラジルやロシアを含むG20 へと様変わりしております。皆さんが、これから入っていく世界はこのように、牽引する機関車を取り替えるかもしれないぐらいの激動の社会なのであります。

ところで、就職率の悪い年の卒業生は「出世（成功）」すると古来言われてきました。社会の上層部に上役が少なく、若いうちから多くの困難な仕事を負わされるために能力が涵養されてしまうためだという説明も付けられて、こういう言説が古くから伝えられてきました。この伝で言えば、皆さんは「出世」する条件にぴったり当てはまっています。出て行く社会の前後左右に人影が少なく、したがって若いうちから様々な難題を突きつけられることでしょう。それに応えていくには皆さんは圧倒的に未熟です。しかし、それはそれでよいのです。時代は、全く新しいパラダイムを要求しています。下手な経験はかえって「生兵法は大怪我のもと」、それよりも「自分には力がある」という「思い込み」あるいは「自惚れ」が必要です。「敵幾千万ありとも我往かん」の意気込みですね。

ここまで話してくると、私には少年時代に、手に汗を握りながら読んだ一つの昔話を思い出します。それはグリム童話の中にある、「いさましいちびっこのしたてやさん」の話です。大変楽しい話ですので、饑に少しお話ししましょう。グリム童話やペロー童話集、日本昔話やマザーグースの話など、民衆が幾世代にもわたって作り上げてきた「伝承」の中には実に真実をうがったものが埋め込まれているのです。

ある朝のこと、何時ものように暗いうちからちびっ子の仕立て屋さんは針仕事をしていました。そこへ、窓の下をジャム売りのおばあさんが、「上等のジャムはいかが！」と言って通ります。「おばあさん、ここへ上がってくればその重い荷物は空になるよ」。重い荷物を担いで急な階段を上がるのを嫌がっておばあさんが天井裏まで来ないのを心配して仕立て屋さんは大口を叩いたのです。しかし、せっかくおばあさんが重い荷を持って天井裏まで上がってきた時に、仕立て屋さんはほんの少ししかジャムを買いませんでした。おばあさんはブリブリ言いながら石段を降りていきまし

た。

仕立て屋さんは、おばあさんから買った新鮮なジャムをパンにたっぷり塗りました。それを食べようとしたが、「待てよ、ぱくつく前に、このジャケットを仕上げちまおうや」。仕立て屋さんはこう言って、パンをすぐ傍におくと、さっきの続きを縫い始めました。あまりうれしいので、一心不乱に縫っていると、甘いジャムの匂いに誘われて、天井に真っ黒く止まっていたハエどもが一斉にパンに襲いかかってきました。それを見ると、仕立て屋さんは真っ赤になって怒って、「やい！だれが、てめえ達に来てくれって言った」と大声で叱りましたが、生憎ハエはドイツ語が分かりませんから、逃げるところかなおも仲間をかり集めてますます多勢してジャムを食べ尽くしてしまいました。怒った仕立て屋さんは、「待ちな！てめえたちにや、これでも呉れてやる！」と帯に使うラシヤの端切れを力いっぱい投げつけました。それから、ラシヤをどけて勘定してみたら、ハエは仕立て屋さんの目の前に、ちょうど「七匹」だけ脚をのぼして死んでいました。

ここの記述は、この物語の中で圧巻です。その箇所を、金田鬼一訳の岩波文庫から拾ってみましょう。

「いよう、おれさまも、こんな野郎だったのか」 仕立て屋さんはこう言って、自分の勇ましいことに、自分で感心ずにはいられませんでした。「こいつは町中に知らせてくれるぞ！」 それから、大急ぎで帯を一本裁って、それを縫い上げると、大きな字で、それへ、『**ひとうちで七匹**』と、縫い取りをしました。「町なんかなんだい！」仕立て屋さんは言葉を続けました、「世界中へ知らせにやならん」 こう言ってみると、ちびっ子の仕立て屋さんの心の臓は、うれしさのあまり、子羊のちょんぼりした尻尾みたように、ふらふら動き出しました。(以上引用)

こうして、このちびっ子の仕立て屋さんは「**一打ちで七匹**」の豪傑となって旅に出ました。旅に出ると様々な魑魅魍魎が出現します。大入道、一角獣、大イノシシ、仕立て屋さんはそれらが発する艱難辛苦を「**一打ちで七匹**」の自信を支えに克服していきました。そしてついに、ある国の意地

の悪い王様を排除して、その王様の一人娘、つまり王女さまと結婚して自ら王様となって幸せな人生をおくったと言うのです。

皆さんも、本学で学んだ4年の間に、ひそかに「一打ちで七匹」の自信を身につけてきたはずです。もし、それを自覚していない人がいたら、しずかに胸に手を当てて考えてみてご覧なさい。必ず「秘めたる自信」があるはずです。もとより、この「いさましいちびっこのしたてやさん」のように「自信」を帯に書いて見せる必要はありませんが、自分だけの「一打ちで七匹」を大切に肌身離さず身につけて、必ずやって来るであろう人生の「魑魅魍魎」に備えましょう。そして、いつの日か、幸せな人生を手に入れましょう。

ここに人生におけるところの「魑魅魍魎」とは、一角獣でも大入道でもなく、みなさんに与えられるであろう様々な私的・公的試練または社会的不条理のことです。つまり、さし当たっては、自信を喪失しつつある地域と国家と世界に課せられた難題、すなわち不況・失業・雇用不安・環境破壊・テロリズム・地域紛争・貧富の格差、列挙すれば数え切れない難問であり、これらこそが現代の私たちを不安に陥れる「魑魅魍魎」に他なりません。

さて、最後に、母校からのお知らせです。今日から1週間後の2010年4月1日を期して、山梨県立大学は「公立大学法人山梨県立大学」として再出発いたします。すでに、3月19日「総財務第109号」・「21受文科高919号」として「公立大学法人設立認可書」が総務大臣原口一博、文部科学大臣川端達夫名で発せられています。山梨県立大学は、今日まで地方自治体＝山梨県庁の末端行政機関として地域における高等教育を担当してまいりましたが、今後は地方独立行政法人法によって法定された独立格をもって自律的に運営される公立大学法人となります。これは、本学が、今までのように、単に標準的な高等教育需要に応えていくだけでなく、産業・医療・福祉・文化・行政など広範な専門性を通じて地域と地域住民のエンパワーメントのために積極的に関わることを期待されている証しであります。これを要するに、山梨県立大学もまた皆さんと期を同じくして社会に雄飛していくことを意味しています。つまり、皆さんと本学とはその意味

で「同期の桜」であるということができるとのことです。

みなさんの母校「山梨県立大学」も、「一打ちで七匹」の気概をもって地域と世界の為に「魑魅魍魎」退治に雄飛していくことを約束して、私の「贈る言葉」と致します。ご清聴ありがとうございました。